

# 予想を超える大集落跡発見 北と南が交易した力持ムラ 黒曜石土器やヒスイも発掘



発掘現場で説明を受ける参加者たち（11/16現地説明会）



竪穴住居



調査は、道路建設部分が対象で長さ約二百五十坪、幅約二十五坪の範囲で行われています。遺跡本来の広がりとしては、地形の連続性や土器などの散布状

れていた場所です。

平成十三年度の調査で竪穴住居跡（注）二十二棟、土坑（主にフラスコ状土坑）（注）三十

## 発見された遺構は

況から推定し、国道45号を一部はさみ力持川と刺畑沢の合流地点までの広い範囲に眠っていると思われま。上空から見れば、二本の川の内側部分に扇形状に広がる低地全体が、縄文時代の力持ムラと考えられます。昨年・ことしと調査している面積（合わせて六千六百六十四㎡）は、遺跡全体の三分の一程の面積と推定されます。

## 縄文土器が多数！

遺物（昔の人が使った道具）は、二か年合わせて縄文土器五百五十箱分以上（四十坪のコンテナ換算）、土製品五十点、石器六千五百点以上、石製品二百点、チップ・フレイク（石器製作時のカス）十箱分以上、コハ

国道45号普代バイパス工事で発見された「力持遺跡」は、縄文時代前期前半～中期後半（およそ五千五百～四千年前）の遺跡で昨年度（平成十三年四月十三日～十一月十五日）から発掘調査が始まりました。国道45号普代バイパス建設で遺跡の一部が道路となつて消滅するため記録保存を目的に行っている緊急発掘調査です。本年度の調査は四月十五日から始まり、竪穴住居跡百棟を発見するなどして十一月二十六日に終了しています。この間行われた現地説明会（十一月十六日）には村内外から約百五十人が参加しました。今月号ではその現地説明会の資料を基に、これまでの調査で分かった内容についてお知らせします。

基、焼土遺構（注）七基、捨て場一か所の調査を終えています。平成十四年度の調査では、竪穴住居跡九十棟以上、焼土遺構（注）九基、土坑（注）百二十基以上、列石（注）一基、集積（注）六基が発見されています。

今の時点で確認作業が終わっていない今年度調査区北部にも、五十棟以上の竪穴住居が眠っていると推定されます。最終的には（来年度も引き続き調査予定）二百軒近い竪穴住居跡が見つかると思われま。